

令和4年の神戸港

国際競争力の強化と、 にぎわい都市としての発展へ

～本年度神戸市港湾局主要施策より～

1

神戸港における 最近の取り組み

神戸港の港勢

令和元年末より世界的に感染拡大した新型コロナウイルスにより、社会経済活動やサプライチェーンに深刻な影響を与え、神戸港においても、令和2年のコンテナ取扱個数が265万TEU（前年比92.3%）と大きく落ち込みました。

令和3年のコンテナ取扱個数は、前年の大幅減の反動により、282万TEUとなり、新型コロナ発生前の令和元年の水準には届かないものの、回復傾向にある状況です。

一方で、新型コロナ感染の再拡大への懸念や海外港湾の混雑など、港湾物流を取り巻く環境は、依然として先行き不透明で、まだまだ楽観できない状況が続いています。

カーボンニュートラルポート

平成30年のIMO（国際海事機関）のGHG削減戦略（2050年までに国際海運から温室効果ガス総排出量を50%削減）や、令和元年のIEA（国際エネルギー機関）による港湾における水素利活用の提言など、近年、港湾における脱炭素化の動きが世界の潮流になっています。

国内においても、令和2年10月に当時の菅首相が「2050年カーボンニュートラル」を宣言し、同年に策定された「2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略」では、我が国の輸出入の99.6%を取り扱う物流拠点であり、かつCO2排出量の約6割を占める産業の多くが立地する産業拠点である港湾においても脱炭素化を進める「カーボンニュートラルポート（CNP）の形成」が明記されました。

神戸港では、神戸空港島における海外から液化した水素を船で運ぶ「水素サプライチェーン構築実証事業」と、ポートアイランドにおける水素から作った電気と熱を、街中に供給する「水素エネルギー利活用開発実証事業」の2つの世界初の実証事業を行っていることもあり、令和2年度に国土交通省よりCNP検討対象港に選定されました。

近畿地方整備局と神戸市が事務局となり、学識経験者や民間事業者で構成する「神戸港CNP検討会」を立ち上げ、令和3年4月には、CO2排出量、水素ポテンシャル等の推計、具体的な取り組み事例等を明示した「神戸港におけるCNP形成に向けた方向性」を取りまとめたところです。



2

令和4年度 港湾局予算概要

ウォーターフロント

ウォーターフロントでは、平成23年にハーバーランドからHAT神戸に至る都心・ウォーターフロントエリアの将来像として「港都 神戸」グランドデザインを策定し、その土地利用方針に基づき、現在、新港突堤西地区と中突堤周辺地区を中心に再開発を進めています。

新港突堤西地区では、第1突堤基部において、令和3年1月の「Stage Felissimo（ステージフェリシモ）」や「駐車場棟」のオープンを皮切りに、4月には「GLION Awa-s Building（ジーライオンアワズビル）」が、10月にはステージフェリシモのチョコレートミュージアムや「神戸ポートミュージアム」がオープンしました。中でも「神戸ポートミュージアム」は、アートと水族館を融合した劇場型アクアリウム「átoa（アトア）」や1階にフードホールを兼ね備えた集客施設として話題を集め、ウォーターフロントの新たな賑わい空間を形成しています。

また、第2突堤では、令和3年3月に、プロバスケットボールをはじめとするスポーツや、音楽興行、MICEなど多様な興業や演出に対応できる、関西圏でも数少ない1万人規模の「多目的アリーナ」の進出が決定し、令和6年の開業を目指しているところです。

中突堤周辺地区では、みなと神戸のシンボル施設の1つである神戸ポートタワーのリニューアルに着手しました。開業から57年が経過し、これまで延べ約2,530万人が訪れ、港町神戸のランドマークとして佇む一方で、経年による施設の老朽化対策や現行の耐震基準に対応した構造補強とともに、新たな集客力向上に向けた取り組みが課題となっていました。そこでさらなる魅力向上のため、開業60周年を迎える令和5年の完成に向け令和3年10月からリニューアル工事に着手しています。

令和4年度の主な取り組み

神戸市の令和4年度当初予算では、「海と山が育むグローバル貢献都市の実現」を掲げ、新型コロナ対策を進めつつ、コロナ後を見据えた神戸経済の維持・回復と持続的発展を目指すこととしています。

港湾局では、港湾物流分野において、日本の港湾物流を支える西日本のゲートポートとして、引き続き、国際コンテナ戦略港湾施策を推進するとともに、港湾における脱炭素化に向け、新たにカーボンニュートラルポート（CNP）の形成に取り組みます。

賑わい創出分野では、新港突堤西地区及び中突堤周辺地区を中心にウォーターフロント再開発を進めるほか、回遊性向上に向けた検討や賑わいづくりに向けた様々なイベントを開催します。また、須磨海岸エリアでは、須磨ヨットハーバー再整備に向けた検討や回遊性向上に向けた実証事業など、四季を通じた賑わいづくりに取り組みます。

安全・安心なみなとづくりでは、南海トラフ巨大地震に伴う津波対策や平成30年の大型台風による高潮被害に対する再度災害防止に向け、引き続きハード対策を進めるほか、陸開等の遠隔操作化などを進めていきます。

次に、令和4年度における港湾局の各主要施策について、詳しくご紹介します。



国際コンテナ戦略港湾

国際コンテナ戦略港湾施策では、「集荷」施策として、内航フィーダー航路網を活かした日本海側を含む西日本諸港からの集荷や東南アジア・北米間をはじめとする神戸港でのトランシップ貨物を取り込むことで、基幹航路誘致に必要な貨物量を集荷し、基幹航路の多方面・多頻度化を図ります。また、コンテナ貨物に加え、在来貨物や航路誘致を積極的に進め、あらゆる貨物に対応した総合型港湾の機能拡充を図るとともに、環境負荷の少ない輸送形態への転換トライアル事業といった脱炭素化に配慮した集荷の取り組みも進めていきます。

また、「競争力強化」では、高規格コンテナターミナルの整備促進に加え、大阪湾岸道路西伸部や

ハーバーハイウェイのETC整備、阪神港COMPAS導入など港湾物流の円滑化を図ることで、神戸港の生産性向上を図り、国際競争力を強化します。



大型コンテナ船着岸の様子

カーボンニュートラルポート (CNP) の形成

水素等の次世代エネルギーの利活用を図り、脱炭素化に配慮した高度な港湾機能・施設の導入等により、神戸港のCNPの形成を進めます。

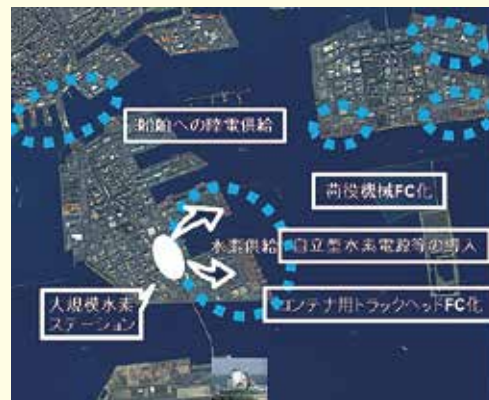
昨年12月に国土交通省より「カーボンニュートラルポート (CNP) 形成に向けた施策の方向性」と「CNP形成計画策定マニュアル」が示されたことから、神戸港においても、温室効果ガスの削減目標や実現するための取り組み、ロードマップなどを取りまとめたCNP形成計画を策定します。

CNP形成に向けた具体的な施策としては、停泊中船舶のアイドリングによるCO2削減のため、停泊時間や係留実績が多い、新港第1突堤や新港東ふ頭の岸壁を対象に、停泊時に船内発電機を停止し、陸上からの電力供給に切り替える陸上電力供給施設の整備に着手します。

また使用電力の脱炭素化を図るとともに、ピークカットによる電力コスト削減、災害時の非常用電源としての活用も見据え、自立型水素電源の導入を検討します。

ポートアイランド (第2期) の神戸インキュベーションオフィス (KIO) の跡地では、コンテナターミナルに近接した立地環境を活かし、荷役機械やトラクターヘッド等の輸送車両などへの水素供給を見据え、CNP形成に資する大規模水素ステーション等の誘致を進めます。

神戸空港島などの緩傾斜石積護岸に広く分布する藻場を、CO2の吸収源である「ブルーカーボン」として評価・活用を進め、CO2削減を図る企業・団体等とクレジット取引を行うブルーカーボン・オフセット制度の導入検討を進めます。



神戸港CNP形成イメージ



空港島における液化水素荷役の実証実験の様子

ウォーターフロントの魅力向上

新港突堤西地区では、第2突堤の多目的アリーナの建設に合わせ、周辺緑地の基本設計を進めるほか、第1・2突堤間では、水域活用に向けた防波堤の整備や事業化の検討を進めます。

中突堤周辺地区では、観光・エントランスエリアとしての磨きを掛けるため、引き続き神戸ポートタワーのリニューアル工事を進めるとともに、工事期間中の賑わいづくりとして、プロジェクションマッピングなど、街とアートを掛けあわせた「神戸ウォーターフロントアートプロジェクト」も引き続き実施します。また、隣接する中突堤中央ビルでは、南館の解体などの再整備を進めます。

このような面的な再開発とともに、ハーバーランド～中突堤～新港突堤西地区に至るウォーターフロントエリア内の回遊を促す取り組みとして、次世代モビリティの実証事業や高浜岸壁と中突堤西緑地を結ぶ橋梁の設計を進めます。



新港第1・第2突堤間の水域活用イメージ



ポートタワー
プロジェクション
マッピング

市民に親しまれるみなとづくり

withコロナ時代における分散型花火・冬のイルミネーションなど新たな賑わいづくりを周辺の事業者と連携して取り組み、ウォーターフロントエリアの活性化を図ります。

海事分野の人材育成については、神戸海洋博物館における企画展などの取り組みに加え、青少年が海・船・港に親しみ港湾産業の重要性を学ぶ機会づくりとして、神戸・みなと体験、みなとの学習会の開催を通じて、学校教育・海技教育機構・遊覧船など港湾関係事業者と連携した取り組みを進めていきます。

また、六甲アイランドでは、背後地の利活用に併せて、マリナーパークの利便性や魅力向上のための再整備検討を進めるほか、ポートアイランド南公園のリノベーションを進めます。

水上オートバイの危険性が顕著となったことを踏まえ、須磨海岸と兵庫運河においては、条例改正により航行禁止区域を指定しました。同条例は5月1日より施行されます。

港湾局では引き続き周知・監視を行い、市民の安心安全を守るための施策を実施します。



冬のイルミネーション「メヤメヤ」

クルーズ・フェリー受入れによる地域活性化

感染症対策や外航クルーズ再開後の客船の寄港に対応すべく、ターミナルでの受入れ体制の強化を進めるとともに、客船入港時のおもてなしや寄港地観光の充実、フライ&クルーズや瀬戸内クルーズの推進を図ることにより、幅広い層の客船誘致を目指します。

神戸ー小豆島・高松航路では33年ぶり、神戸ー宮崎航路では25年ぶりとなる新造船の就航を契機に、さらなる内航フェリーの活性化を図るため、with コロナに対応したフェリーによる船旅の魅力のPRや利用促進に取り組みます。



令和4年度就航予定の新造船

須磨海岸エリアの魅力向上



須磨海浜水族園・海浜公園再整備イメージ

JR須磨駅から須磨ヨットハーバーに至る約1.8kmの海岸沿い遊歩道において、次世代モビリティによる運行実証を行い、回遊性向上や新たな魅力づくりについて検証を行います。また、四季を通じた賑わいづくりの一環として「スケートエリア」「ドックランエリア」の社会実験を引き続き実施します。

さらに、海路を活かした新たな賑わいづくりに向け、帆船「みらいへ」による都心（中突堤）と須磨エリア間を結ぶ体験航海を引き続き実施するほか、新たな観光スポットの開業やサイクリングのアワイチなどで話題性が高まっている淡路島と須磨エリアを結ぶ海上交通の実証事業を行います。

須磨ヨットハーバーの魅力向上に向けた取り組みでは、施設更新や機能拡充とともに、防波堤敷のプロムナード化等によるマリナーを身近に感じられる空間づくりや、アクセス動線の改善など、周辺整備を含むヨットハーバー再整備に向けた検討を進めるほか、民間の資金やノウハウを活用した運営手法の検討を進めます。



須磨海岸帆船体験



須磨海岸SUP (スタンドアップパドルボード)体験



神戸空港の運営

神戸空港は、平成30年4月から関西エアポート神戸(株)が運営しており、関西国際空港及び大阪国際空港との一体的運営を図っています。令和元年5月の関西3空港懇談会の合意に基づき、発着枠の拡大及び23時までの運用時間の延長が実現しました。また、令和4年夏ダイヤからは、新潟への路線が結ばれ、就航都市は全国13都市へと拡大します。

引き続き、コロナ禍により落ち込んだ航空需要の回復に向け、関西エアポート神戸(株)や航空会社などと取り組むとともに、神戸空港のさらなる利活用が進むよう、就航先の自治体などとも連携し、航空需要の拡大に向けて取り組みます。



空から見たポートアイランドと神戸空港

安全・安心なみなとづくり

将来、発生が想定される南海トラフ巨大地震に伴う津波（レベル2）対策として、防潮堤をねばり強い構造へ補強するハード対策を進め、令和4年度末の完了を目指します。また、発災後、短時間で到達する津波に対し、防潮鉄扉等を迅速・確実に閉鎖するとともに、閉鎖従事者のさらなる安全確保を目的に、防潮鉄扉等の遠隔操作化に順次取り組んでおり、令和6年度末の完了を目標に、神戸港全域の遠隔操作化を進めます。

平成30年の大型台風による高潮被害を受け進めている、再度災害防止対策では、ポートアイランドにおいて、排水ポンプ整備や道路の嵩上げなどによる

緊急輸送道路の浸水対策に取り組むほか、六甲アイランドにおいても引き続き荷捌き地や背後道路の地盤嵩上げを進めます。



六甲アイランド嵩上げ工事の様子

3

おわりに

神戸港が神戸市にもたらす経済効果は、所得創出効果で市内所得の約3割、雇用創出効果で市全体の約26%との推計結果（令和2年3月公表）があり、神戸経済を牽引するという点においても重要な役割を担っています。

その為、令和4年度予算で掲げた施策を着実に推進する

とともに、神戸港の主たる機能である「港湾・産業」と、みなとまち神戸の活力と文化を創造する「にぎわい・都市」の両面から取組みを進めることにより、神戸港のさらなる国際競争力強化と持続発展するまちづくりに貢献してまいります。

宮崎カーフェリー

神戸～宮崎間に 新船「フェリーたかちほ」就航

2022年4月15日宮崎港発～16日神戸港着



神戸～宮崎航路を運航する宮崎カーフェリー株式会社（郡司行敏社長、本社・宮崎市）の25年ぶりとなる新船「フェリーたかちほ」が就航します。第一便が4月15日午後7時10分に宮崎港を出港し、翌16日午前7時30分、神戸港に到着予定です。

新船は全長194m、全幅27.6m、総トン数約1万4200トン。現行船「みやざきエクスプレス」「こうべエクスプレス」より大型化され、トラックの積載台数がアップ、輸送力が強化されます。また個室が大幅に増え、バリアフリー、ペット対応個室も新設されるなど客室バリエーションも充実、多様な旅のニーズに対応しています。ゆったりと快適な船旅を楽しめそうです。

さらに2隻目の新船「フェリーろっこう」も建造中。3月30日に進水式を終えて内装工事などを行っており、10月に就航予定です。



2021年10月20日に開催された新船「フェリーたかちほ」の進水式



宮崎県出身でみやざき観光大使の漫画家・東村アキコさんが、支綱を切断。写真は支綱切断の際に用いた銀の斧の実物

新船「フェリーたかちほ」はこんな船

概要

全長・全幅	約194m×27.6m	トラック積載台数	163台
総トン数	約14,200トン	乗用車積載台数	81台
航海速力	23ノット	旅客定員	576名



積載トラック台数がアップ

船体の大型化によって、積載できるトラック数が現在の130台から163台へと増加。輸送力が強化されます。

環境にやさしく

従来の燃料をろ過する装置が取り付けられるなど、環境にやさしい設計に。船型そのものも波の抵抗が少なくなるデザインで、省エネ化されています。

モダンなデザイン

船内は宮崎の豊かな自然やトロピカルフルーツをイメージし、緑やオレンジをふんだんに使った明るい色彩。伝統芸能の神楽で使用される「彫り物（えりもの）」の切り絵をモチーフにしたものなど、モダンなデザインです。



快適な船内で、
楽しみ方いろいろ



充実の個室

よりプライベートな空間でくつろげるよう、個室を増設。旅客定員のうち約50%の乗客の個室を確保。またトラックドライバー向け船室は完全個室で、専用レストラン、バスルームを設置し、一般旅客とは別空間となっています。



シングル（全64室）



ドミトリー（定員252名）

航路



毎日 19:10発 → 翌 7:30着
のぼり
翌 8:40着 ← 月~土 19:10発
くだり
日 18:00発

さまざまなスタイルの客室

シングルやツインルームをはじめ、最上級の「プレミアム」、2段ベッド×2の4人部屋「ファーストフォース」、ペットと共にお部屋で過ごせる「ウィズペットルーム」「バリアフリールーム」など、さまざまな旅のスタイルに対応しています。



プレミアムツイン (全6室)



ファーストフォース (全10室)



プレミアムバリアフリー (全2室)



ファーストツイン (全16室)



設備も充実

キッズコーナーやベビールーム、イベントステージ、展望サロンなど新設備も整えられています。ビジネスや一人旅でも、家族やグループ旅行でも、それぞれにワンナイトクルージングをより楽しめそうです。



キッズコーナー



レストラン



展望浴室



展望サロン



イラスト

さわやかでぬくもりのある新船「フェリー たちほ」のオリジナルイラストは、イラストレーター、永井博さんの描き下ろし。永井さんは大瀧 詠一「A LONG VACATION」(CBS・ソニー出版)をはじめ、多くのアーティストのレコードジャケットを手掛けるなど活躍されています。

テーマソング

新船のオリジナルテーマソング「BLUE MAGIC (ブルーマジック)」を、20周年を迎える音楽レーベル「カクバリズム」所属ミュージシャンらによる豪華スペシャルバンドが制作。二階堂和美さんと浜野謙太さんがボーカルを務め、カリブソ調の明るいメロディで、ひなたの国、宮崎への船旅に誘います。



南国の魅力、宮崎



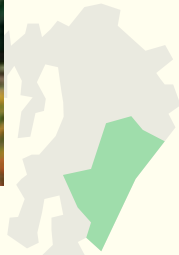
神話の舞台や南国ムード漂う海岸線…。温暖な気候、豊かな自然に恵まれた宮崎には、訪れてみたいスポットが多く点在しています。多彩なご当地グルメも楽しみの一つです。

ジャカランダ

5月末から6月にかけて青紫色の花を咲かせるジャカランダ。世界三大花木の一つとされる南米原産の花木です。日南市南郷町の「道の駅なんごう」周辺では多くのジャカランダが咲き誇り、光り輝く日南の海との共演に魅了されます。



モアイ像（サンメッセ日南）



©一般社団 延岡観光協会



高千穂峡

「ジャカランダまつり」

2022年5月28日(土)～6月19日(日)予定
宮崎県垂熱帯作物支場～道の駅なんごう周辺

うどん

宮崎グルメと言えば「チキン南蛮」「地鶏炭火焼き」がよく知られていますが、「釜揚げうどん」も名物の一つです。柔らかめのうどんを揚げ玉たっぷりの出汁でいただくもので、地元の人たちに愛されています。日南市周辺では「魚^{ぎよ}うどん」も。小麦粉の代わりにアゴ(トビウオ)など魚のすり身を使った“うどん”です。

メッセージ

25年ぶりの新船を皆さまにご提供できる喜びをかみしめています。フェリーの旅の魅力はカジュアルさではないでしょうか。新船では、その気軽さは残しつつ、少し豪華に、そしてより快適にくつろぎの旅を楽しんでいただけます。

出航時間になると、神戸の街に汽笛が鳴り響き、夜景がしだいに遠ざかっていく。船旅ならではのワクワク感を、この機会にぜひ味わっていただければ幸いです。



宮崎カーフェリー
関西支店長
細川 修一 さん

10月頃までは「新船お試しキャンペーン」として、現船と同一運賃でのご利用ができます。

詳しくは「宮崎 カーフェリー」で検索

宮崎 カーフェリー 検索

お問い合わせ・ご予約

関西予約センター TEL 078 (321) 3030

公式サイト <https://www.miyazakicarferry.com/>

新船情報 <https://www.miyazakicarferry.com/shinsen/>

